

新学校点描

「校長先生の話、オンラインで聞きづらい中でも一生懸命聞いていました。」N先生が3年生の姿を教えてくださいました。

《K中学校》

NO.8 R3. 8. 18

担当：校長

夏季休業中、3年生が技術の授業で植えたトマトをときどき収穫しました。夏休みが入る前に、毎朝、水をくんで熱心に世話をする男子生徒がいました。「校長先生！トマト大きくなりました」と教えてくださいました。夏休みに入ると、誰もいない学校の畑に、たくさんのトマトが真っ赤になっています。だから時々収穫していました。冷蔵庫にも入りきれない程でした。

新型コロナウイルスの感染拡大が爆発的に広がっています。Y県も、ここ数日は、新規感染者が40～50人と、医療逼迫が心配されます。昨年度以上に、これからの教育活動をウイルスに感染させない中でどう行っていくかを必死に考えていかななくてはなりません。

8月18日夏休みが終了して登校再開のこの日、朝いつものように外に立っていると、大きな声で挨拶してくれる生徒が多かったです。それだけで本当にありがたいものです。1時間目は、人権集会を開きました。1年生だけランチルームで、1年生に向かって話をしました。2年生と3年生は教室で、オンラインで映像を見てくれています。そのときに、私が語ったことを、たよりに記します。

学校というところ

昨日で夏休みも終わりました。この間、大きな事故や事件に巻き込まれたという報告がなく、安心していきます。さて、夏休みがあけて、これから秋に向かうこの時期は、運動や文化面、生徒会などで自分の能力を伸ばす時期です。新人大会や、生徒会選挙、弁論大会や国語科や美術で制作した作品のコンクール、3年生はいよいよ中学校を卒業した後の自分のすむ道を決めて、それに向かって力を伸ばす時期が、この時期です。数日するとすぐに新庄祭り休みに入るわけですが、今日からは、秋に向かって自分の能力をどこまで発揮できるのか、挑戦する気持ちを少しずつ高めてほしいです。

さて、わたしの今年の夏は、ほぼ図書館で過ごしました。いつだったか、立ち読みして見つけた文章の中にぜひK中生にも紹介したいものがありました。

そこで今日は、そこで見つけたある文章を読みます。作者はもう大人になった男性の方のようです。

僕が小学校5年生のとき、寝たきりで減多に学校に来なかった女の子と同じクラスになったんだ。その子、たまに学校に来たと思ったらすぐに早退しちゃうし、最初はあいっただけズルいなあなんて思ってたよ。それで、僕の家、その子の家から結構近かったから僕が連絡帳を届ける事になったんだ。女の子のお母さんから連絡帳を貰って、先生に届けて、またお母さんに渡して…。その繰り返し。なんで自分がこんな面倒臭い事しなくちゃいけないんだ！って、一人でブーたれてたのを良く覚えてる。

そんなある日、何となくその子の連絡帳の中を覗いてみたんだ。ただの興味本位だったんだけど。連絡帳にはその女の子のものらしい華奢な字で、ページ一杯にこう綴られてた。

『——今日もずっと家で寝てました。早く学校に行きたいです。——今日は窓際から女の子達の笑い声が聞こえてきました。…学校に行けば、私も輪に入れるのかな…』

ショックだった。

学校行かないのって楽な事だと思ってたから。ハンデがある分、ひいき目にされて羨ましいって思ってたから。でも彼女の文章には学校に行けない事の辛さ、普通にみんなと遊びたいって気持ちに溢れてて、なんだか自分が、普通に毎日学校に通ってんのが申し訳なくなってる。

だから、連絡帳にこっそり書き込んだんだ。

「いつでも、待ってるからな。体が良くなったら遊ぼうな！」って。

でもある日の朝、その子の家に行ったらその子のお母さんに「もう、連絡帳は届けなくていいの」って言われた。

あまりにも突然だった。自分はその頃、悪ガキで、頭もすげえ悪かったけど、その子のお母さんの言ってる意味は伝わったんだ。……この子は天国に行ったんだ。もう一緒に遊ぶ事は出来ないんだ……。

そんな事考えたら涙が溢れて…止まらなくて…。ずうっと泣き続けてた僕に、その子のお母さんは連絡帳をくれたんだ。

せめて君だけは、学校にも行けなかったあの子を忘れないで欲しいって。

そんな僕ももうすぐ30歳になろうとしてる。あの時の連絡帳は、引き出し下段の奥底にずっとしまったきりだ。

就職したり、結婚したり、子供が生まれたり…。今まで、本当に色々な事があった。時には泣きたい事、辛い事の連続で、やけっぱちになる事もあった。

けど、そんな時はいつも引き出しを開けて、女の子の連絡帳を開くんだ。

そして、彼女が亡くなる直前に書かれた文章を読み返すんだ。

『ありがとう、いつかきっと、遊ぼうね』



図書館で、こういう文章と出会いました。今日は夏休み明けで学校来るの辛かったですよね。聞いていてどう感じましたか。

わたしは、なぜか、「優」というこの漢字を思い浮かべました。

「優」（やさ）しいの漢字。この字を分けてみると部首がにんべんと憂（うれい）という字です。「憂い（うれい）」とは、心配で不安になるという字ですから、右側は意外に暗いイメージなのです。

この「憂」（うれい）という字の成り立ちを調べてみると『大切な人を亡くして悲しんでたたずむ人の姿』を表していると言われています。その悲しんでたたずんでいる人の横に、人がよりそっている形が「人（にんべん）に憂（うれい）」の「優」という字だというわけです。漢字って不思議で、意味が分かるとその字から、人が人を思いやっている姿が見えてきます。

ところで、昔、日本にも葬式の時「泣いてあげる、泣き女」という人がいたそうです。韓国や中国には今もそういう風習が残っているところがあるようですが、そこから他人の悲しみを代わりに引き受けて本当の事のように悲しみを演じる人たちのことを「俳優」というようになります。俳優の「優」は、そういう意味だったんです。

学校は勉強をするために来る場所です。でもそれ以上に、人が人として寄り添うことを覚える場所です。コロナが感染している今だからこそますます、そのことは大切な学びです。乱暴な言葉やいじわるな言葉を吐いたり、ネットに書き込んで傷つけ合うことをするとしたら、K中で何も学ぶことがなかったことになります。

これから各学年、各生徒個人、さまざまな目標で活動や勉強をしていくわけですが、人として寄り添うことが、それらの活動の土台になります。そのことを理解して、秋の実りの時期に向けてスタートさせていきましょう。

(8月18日 ランチルームから配信)

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

メールでご意見をいただいても構いません。Shinyatk1616n@yahoo.co.jp